

# 生産性研究の最前線

# PART IV

ヴァージニア大学経済学部 准教授 向山 敏彦

筆者とYoonsoo L.によってどう変化する（年次工業統計）であ

88(ユンス・リー) かを実証的・理論的に、ここでは1972年  
西江大学校副教授がま 分析する。実証分析に 年から97年までのデー  
とめた論文「事業所の 用いるデータセットタを用いる。

「循環」では、事業所レベルでの参入・退出行動が、景気循環の局面 of Manufactures

表1 参入率と退出率

	好況	不況
参入率	8.1%	3.4%
退出率	5.8%	5.1%

表2 参入事業所と退出事業所の規模(継続事業所との比較)

	好況	不況
参入事業所	0.53	0.70
退出事業所	0.50	0.46

表3 参入事業所と退出事業所の生産性（継続事業所との比較）

	好況	不況
参入事業所	0.69	0.85
退出事業所	0.65	0.65

ansing effect of によって大きく影響された  
(参入した事業所の)

数を経営事業所数で割  
たもの」と退出率  
ばれる。表1の結果は、

によって大きく影響された。が重要

しかしながら、モデ かった。  
ルを修正して参入に関 ました。

かった。  
もしもこのコストの

（退出した事業所の不況の浄化効果はこの数を経営事業所数で割ったもの）を示している。好況と不況は、製造業の生産指数の成長率によって区別されている。退出率は、息子兄弟と不況時に参入・退出事業所から観察されたデータから観察されている。ここではむしろ、参入側のふるまいに景気循環の効果が表れている。

この論文ではさらに、動学的な一般均衡モデルを用いてデータの解釈を行っている。モデルは標準的な企業動学モデルに景気循環を生むマクロ的なショックを導入したもので、わゆるコストが景気循環の局面ごとに变化する」と仮定すると、表2・表3のパターンも定量的に再現できることがわかった。

まとめると、データ

変化が何らかの非効率性によるものであるならば、それを政策によって正す余地が生じる。景気循環の各局面における参入コストの性質については更なる研究が必要である。

不況期に減少する事業所の参入

（年次工業統計）であ  
う、ここでは1972  
年から97年までのデー  
タを用いる。

[illegible]

異なっている。理論的には、参入に関わるコストが景気循環の局面ごとにどう変化するかことが重要であることがわ